

平成30年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ ハシモトマサヨシ  
氏名 橋本雅好

研究期間 平成30年度

研究課題名 揚輝荘における文化とデザインを融合したイベントに関する実践的研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	橋本雅好	生活科学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究は、椋山女学園との関わりの深い城山・覚王山地区にある揚輝荘において、文化とデザインをキーワードとした、大学研究室と地域との連携によるイベント企画によって、学生へのデザイン教育における実践的活動の効果について検証することを目的としている。具体的には、これまでに実践してきたイベントやインスタレーションを用いたまちづくりの手法を揚輝荘の文化的特性と照らし合わせ、城山・覚王山地区で活動している「ちくさ・文化の里づくりの会」などと協働しながら、揚輝荘を会場とした文化とデザインを融合したイベントを実施することを目的とする。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

- 1) インスタレーションを用いたデザインイベントの視察・現地視察 (7月～9月)  
日本各地で開催されているインスタレーションを用いたデザインイベントの代表的な事例については、現地視察をおこない、デザインイベントの企画内容の類型化をおこなう。
- 2) 文化とデザインを融合したイベントの実践・イベント企画・実施 (8月～11月)  
橋本雅好研究室として、これまでに培われた地域との連携手法を活用して、ちくさ・文化の里づくりの会と協働により、輝荘を会場とした文化とデザインを融合したイベントを企画し、作品制作およびイベントマネジメントをおこなう。  
以上の2点を総合的に検証し、大学研究室と地域との連携によるイベント企画によって、学生へのデザイン教育における実践的活動の効果について検証する。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

揚輝荘を会場としたイベントやインスタレーション企画として、4月～7月にかけて、ちくさ・文化の里づくりの会での打ち合わせをおこない、7月～10月にかけては、部品を制作し、2018年11月17日～12月2日では、インスタレーション「四輝源ノ詩」を展示した。期間中、1000名を超える来場者となり、「揚輝荘の起源と作品イメージが混ざり合った展示が合っていた。」といった声を得た。また、2018年11月23日には、こども向けの制作ワークショップを実施して、約30名の参加者となり、地域の方々との交流の場となった。

本研究では、大学研究室と地域との連携の可能性を見いだせ、揚輝荘のような歴史的にすばらしい文化施設に作品を展示することによって、ものづくりを通じたインスタレーションイベントが、大学研究室と地域との連携に大いに活用できることが明らかとなった。今後もこのような地域連携を続けていくことで、大学と地域の連携が深まり、地域の魅力を伝えていけると考える。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①揚輝荘	②地域連携	③インスタレーション	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

地域連携として、講演会などの場での発表を考えている。